

展望台

わが国航空宇宙産業技術の
総力をあげて安全保障に貢
献を

戸塚 正一郎



当社はこの4月に社名を(株)SUBARUと変更させていただきました。飛行機研究所（後の中島飛行機）として創業し100周年を迎えるこの年に、航空機メーカーとしてのDNAを受け継いだ「安心と愉しさ」を追求し、特徴のあるブランドを標榜して自動車事業と航空宇宙事業の両輪で成長を期するという想いを込めたものであります。航空宇宙事業の主力拠点である宇都宮製作所では、多用途／戦闘ヘリコプター事業や練習機事業、P-1／C-2主尾翼の分担生産に加えて当社のユニークな分野として無人機事業にも磨きをかけております。また愛知県の半田工場は5機種の大型機中央翼を生産する中央翼センターとして成長を遂げて参りました。これまで富士重工、FHIとしてご愛顧いただいた多くの皆様に心から感謝するとともに、今後ともどうかよろしく願いたします。

昨今、国内外で自然災害が多発しており、九州北部豪雨や利根川流域などの水害は記憶に新しく、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。その都度、消防、警察等は無論、多くの自衛隊員が組織だった災害派遣活動を展開されており、国民の一人として本当に心強くありがたいことと思っております。東北・熊本での地震災害においても同様でしたが、災害時対応にはヘリコプターを中心とした航空機が不可欠であり、陸上自衛隊の多用途ヘリコプター等の

活躍がよく知られています。当社はこの多用途ヘリコプターメーカーとして既存のUH-1Jの整備・運用支援に努めつつ、後継機として現在、米国ベル社と共同開発中のUH-Xを、一刻も早く仕上げ陸上自衛隊に納入させていただくことで、国民と防衛省の期待に応えたいと思っております。

さて仕事柄、国内外のあちこちの工場を拝見させていただく機会がありますがここ数年、各業界・各分野においてことごとく「安全」「品質」「生産性向上」を経営のキーワードと耳にします。そして5S3定など職場の整理整頓に始まり、サプライチェーンマネジメントや物流まで、およそ生産システム全体に亘る改革活動に拍車がかかっており、その進歩には目覚ましいものがあります。これらの根源には「設計技術や卓越したプロセス・生産技術は生き残りのための必須条件ではあるが、十分条件ではない」、世界の各国がこぞって航空宇宙産業に成長の糸口を求めて投資と助成を強めている中で「現状に甘んじては生き残れない」という危機意識があると思います。この環境下で国内の多くの企業は、まさにグローバルサプライチェーンの中で見事に成長と生き残りを果たして今日に至っているものと確信しています。

例えば生産技術面では、私がまだ若手としてF-2の開発、生産に携わっていた頃、チタン部品の機械加工に何週間もかかりましたが、現在では刃物や切削機械が進歩し何倍も生産性が向上しています。また構造組立における穿孔技術においては、当時深さ1インチ、直径1/2インチボルト孔を穿孔するのに一日がかりでやっと数カ所でしたが、当社の半田工場の787生産現場では深さ2インチ、直径1インチ超のボルト孔を、耐久性に優れた高性能ドリルと穿孔マシンの活用して数十カ所を一気に穿孔しています。複合材部品の積層についても、かつて100プライ（枚）積層するのに1週間も要していましたが、現在では大規模で高精度な自動積層ロボットにより何倍もの面積と積層数を短期間で積層してしまうのが当たり前になっています。

これは当社でのほんの一例ですが、国内の航空機・部品・装備品メーカーでは日進月歩の技術革新により、民間機事業を中心にここ30年あま

りて目まぐるしい技術的進歩を果たしており、各々の技術は世界レベルに達している素晴らしいものばかりです。そして各社とも、これらの優れた技術、設備、技能に甘んじることなく、さらに技術と品質を向上させるための改善努力、技能伝承を日々必死に繰り返しているのです。

現在、次代のわが国防衛を担う将来戦闘機の事業化を目指して、わが国がイニシアチブをしっかりととりながら主体的に事業を推進していくため、開発に向けたさまざまな要素技術の研究開発が盛んに進められています。ステルス技術、高速機ならではのインターダクト技術、軽量構造向けの材料開発、新たな高精度センサ技術や広域データ通信技術など多くの技術が実用段階にさしかかっていると理解しております。わが国主導の戦闘機開発事業を通じて、これらを実用化することにより比較優位性がしっかりと確保されることを期待しております。それらに加え、上記に述べたわが国の航空宇宙産業全体レベルでの各社の活力と最新の先進生産技術をフル活用すれば、世界を凌駕する高性能な最新の戦闘機システムを競争力あるコストで開発・生産することが必ずできると信じております。

加えて、わが国の航空宇宙産業は他国に比肩されない品質と運用支援体制を誇っていることは周知のことです。装備品はその性能だけでなく、個々のシステムの稼働率をいかに高いレベルに維持し向上させていくかが勝負であると理解しています。高いワークマンシップと実績を誇る国内の製造・運用インフラなど、国内産業基盤の活用こそがその実現に不可欠です。

これらの進んだ航空機生産技術、戦闘機システム技術、航空機運用支援基盤と何よりこれらを支える品質とモチベーションの高さは、わが国が誇る素晴らしい財産であり、これらを一同にインテグレートする国策的事業を推進することによって、将来にわたってわが国の防衛力および航空優勢を確保することができ、また基盤の活用を通じてわが国の安全保障に役立つことが、私ども航空宇宙産業に従事する者の願いと確信しております。

株式会社 SUBARU 常務執行役員 航空宇宙
カンパニープレジデント